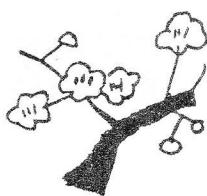




所の研究する
登戸見渡辺先生で
軍陸登見学会で
イベントの説明す
る



す。一三日には松代大本營に
所についてそれぞれ報告しま
す。

ルに展示するとりくみとして
進められていることです。写
眞家の小池洋さんに全面的な
協力をつけ、芸術性高い展示
になるものと考えています。

第二には、中高校生が独自
の実行委員会をつくって、そ
れぞの調査研究の交流と討
論が予定されていることです。

第三には、シンポジウムや
講演会を充実したものにする
とりくみが進んでいることです。
す。一二日には登戸研究所に
勤めた体験のある和田さん、
中国で強制連行した体験のあ
る小島さん、連合艦隊司令部
で勤いた体験のある足立さん
から話を聞くこととしていま
す。

港北区民会議

からくりの報生口

橋本 ミチ子

第10期港北区民会議に日吉
台地下壕保存の会から4名の
幹事が参加しています。寺田
さんは推薦されて運営委員に
なりました。

区民会議では区民の意見を
行政へ反映させるために、さ
まざまな人が意見を交換し、
いく予定です。

この戦争展は、横浜市と横
浜市教育委員会から後援をう
けることができました。

戦争展の成功にむけて、是
非皆様方の絶大なる御協力と
御支援をお願いする次第です。

地下壕保存の会では歴史と
文化の視点から、保存運動に
対し多くの区民の理解と賛同
を得、行政に提言していくた
め、市の長期ビジョンにある
「歴史と文化を生かした街つ
くり」を分科会のテーマとし
て提案しました。その結果、
子どもの問題も含めて「やす
らぎ地域づくり」のテーマで
分科会が設けられ、世話人と
して寺田さんが選ばれました。

分科会を設けて問題点を掘り
下げ、行政に提言していくな
どの活動をしています。

これまでには「「ミミと環境」
、「高齢化と福祉」に関する要

1993年7月5日

地球にやさしい人にやさしい

第223号 (8)

下壕見学会

について考えよう～



もって戦争を実行しようとした軍部はとんでもないと思った。」など、当時の戦争のあり方に疑問を投げかけたものもありました。

また、地下壕の保存についてどう考えるかという質問では、ほぼ全員が地下壕は残すべきだと答えました。その主な理由は、「地下壕を残して戦争の愚かさを後世の人に伝えるべきであるから、そのために地下壕は必要だから。」、「戦争は子孫に絶対伝えていかねばならないことだと思うので、当時の状況などをリアルに実感できる地



下壕はとっておくべきである。」という地下壕を戦争を省みる場として必要であるというものと、「これだけ大規模な施設は他にないと思われるから。」、「貴重な歴史的資料であるから。」など、史的価値の高さから保存を考えているものがありました。しかし、両者とも言っていることは同じであると思われます。

また感想に、「泥がすごかった。」、「泥対策をすべきだった。」というように泥に対する感想も多かったです。寺田先生のお話によると、こ

の泥は米軍が進駐してきたとき、入口を塞ぐため爆破したので入り込んだものだそうです。やはり前述したように長靴は必須であるということを私も含

めサンダル履きの参加者は痛感させられました。くどいようだが長靴は必須のようです。

参加者の中には興味本位から参加した人もいたと思われますが、見学後の感想やアンケートを見るに多少なりとも平和について考えるきっかけとなつたのではないかでしょうか。そういう点でこの企画は成功だったといえます。

最後になりましたが今回ご協力を頂きました皆様、どうもありがとうございました。また参加者の皆さんご苦労様でした。

愛心義塾生協会 WS vol.223
をもとに再録しました。

特集

日吉台北

～平和(

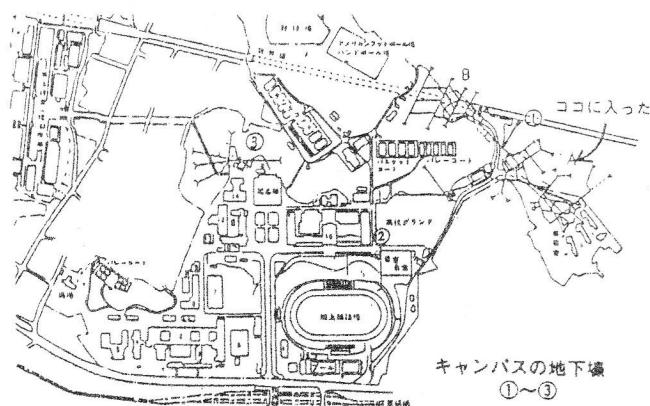
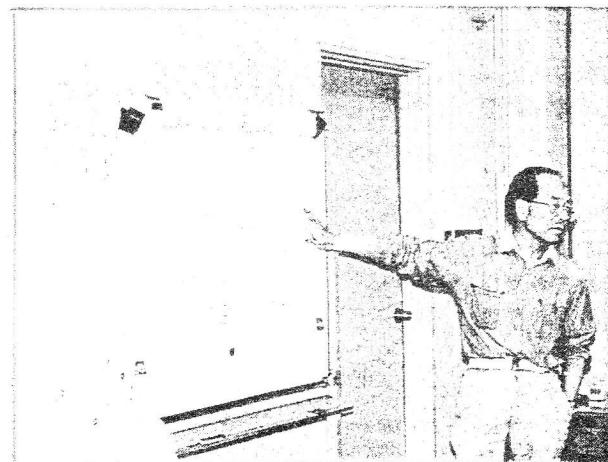
去る6月12日(土)、生協学生委員会主催の地下壕見学会が開催され、28名の参加がありました。

ところで皆さん日吉に地下壕があることをご存じでしょうか。(略)

さて、今回の地下壕見学会では、まず塾高の寺田先生による地下壕や当時の日吉の状況、地下壕が作られた背景などの丁寧な説明を聞いた後、実際に地下壕へ入りました。内部は指令部があつただけの事はあって、コンクリートで固めてあり、また予想外に涼しく快適でした。奥へ進むと当時使われていたトイレや司令を送っていた部屋、水道の跡、さらには鍾乳石まであって50年という時の流れを感じさせました。その場その場で寺田先生の説明を

受けながら地下壕を見学してまわりました。ただ奥の方では、泥が非常に多く足をとられて歩くのが困難なところもありました。やはり長靴と懐中電灯は必須です。約1時間で見学は終了し、アンケートを参加者の皆さんに書いてもらい、一人一言ずつ感想を述べあって解散となりました。

参加者の感想では、「戦争の指令部として使われていた様子が目に浮かんだ。」、「コンクリート壁は予想よりずっと保存状態が良かった。」、「便器や発電機のボルトなどが生々しかった。」、「想像していたよりも広かった。」、「いつも何気なく来るとこ



ろに、こんな物があったとは驚いた。」、「次元のちがう空間にいるようだった。」、「タイムスリップしたような感じがした。昔あんなところで軍議が行われていたなんて意外だった。」など、地下壕そのものに対する感想から、「ああいうところにまでこ

連載

日吉口ムロ地下壕
当時の関係者名の
田心い出話 3

日吉移転前後 3

日吉に最初に移転してきた
軍令部第三部（情報部）の動
きを実松氏に伺います。

実松 謙氏の話

（ときて：寺田貞治）

駐米大使館海軍武官補佐官

（中尉、後に大佐）であった
私は、昭和一七年八月大使館
員の交換船で帰国して、第三

部第五課に配属された。第三

部の陣容は全く貧弱で、僅か
一九名であった。米国を担当
する第五課は、たった四名で
あつた。

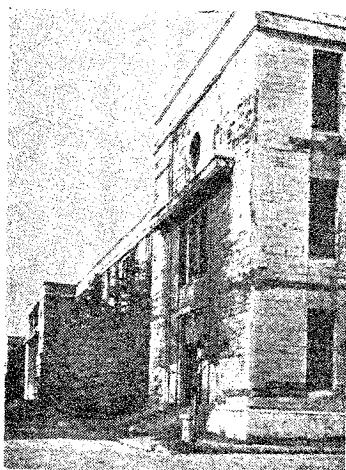
戦局の進展とともに、第五
課の対米情報作業対象地域が
広がり、増員の必要性が高ま

つてきた。にもかかわらず人
事当局は、中堅士官の不足を
理由に第一部（作戦部）など
には増員しても、情報部は増
員してもらえなかつた。

それでも、大学出の予備士
官ならいると言うことで、一
八年五月ごろ、第五課に三名
の主計大尉が配属された。そ
の後も三名、九名と増員され、

一九年初めには一応対米情報
作業に必要な基礎要員が確保
された。

皮肉なことに、平時定員を
辛うじて収容できる東京霞ヶ



日吉移転当初の高等学校

関の海軍省の庁舎では、増員
された人達を収容することが
できないので、どこかに移転
しなければという話が出てき
た。

また、サイパン島から日本
までの飛行能力のあるB29が、
日本を空襲することが現実に
なつた時、霞ヶ関に呑気にい
ていいのかが問題になつた。
そこで、移転の候補地とし
て挙がつて来たのが、日吉の
慶應の校舎であつた。

霞ヶ関から日吉までは自動
車で一時間ほどかかる。「日
吉じや遠いな。

情報部にそば

にいてもらわ
ねば困るよ」
と作戦部の連
中が言うのを
期待した私は
見事に裏切ら
れてしまつた。

「作戦部にとつて、情報部は
あつてもなくともいい存在な
のか」と言う感を深くしたの
は、私の解説というものだつ
たろうか。「作戦を腰だめ
へ大体の見当で物事をするこ
と）でやつていたのではない
か」と言う思いがある。

陸軍はもつとひどく、情報
を操作したり、捏造したりし
ていた。ある時、陸軍の情報
があまりにおかしいので、そ
の出どころをたどり、問い合わせ
めたところ、「東条から『米
国的情報を作れ』と命令され
てやむなく捏造した」と白状
したことがあつた。

第二次大戦も、ドイツの電
撃的勝利に目がくらみ、ドイ
ツが勝つことを信じて「ヒッ
トラーのバスに乗り遅れるな」
とばかりに腰だめで始めたと
いう印象がある。

（生協ニュース教職員版第四
一号より抜粋転載）

第八回松井事△云報生口

一一月一七日一七時半

慶應高校地学教室

報告事項

一、一〇月二二二～一四日慶應

高校日吉祭で地下壕展開催

二、同二五日港北区民会議委員の地下壕見学会一〇名参加

三、同二六日下田小学校の史跡巡りで蟹ヶ谷通信隊を見学一〇名参加

四、同二七日慶應大学日吉担当の小谷津理事と鮫島会長、寺田事務局長が会談。

五、同二六日下田小学校の史跡巡りで蟹ヶ谷通信隊を見学一〇名参加

六、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

七、一二月九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

八、同二七日川崎高校先生・生徒の地下壕見学会一五名余参加

九、同二二日「第二回日平和のための戦争展」プレイベ

十、同二四日野麦オーブンス

クールの地下壕見学会予定

一一、同二五日平和のための戦争展実行委員会予定

一二、同二六日下田小学校の史跡巡りで蟹ヶ谷通信隊を見学一〇名参加

一三、同二四日野麦オーブンス

クールの地下壕見学会二〇名余参加

一四、同二五日戦争展実行委員会

一五、同二六日慶應生協学生委員会の地下壕見学会二五名余参加

とであつた。

の発送

*開催中の当番について

*会報発送の時ビラを同封する

七、一二月九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

八、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

九、同二二日「第二回日平和のための戦争展」プレイベ

十、同二四日野麦オーブンス

クールの地下壕見学会二〇名余参加

一一、同二五日「第一回平和のための戦争展」

一二、同二六日横浜市より後援を承認すると通知があつた

一三、同二四日野麦オーブンス

クールの地下壕見学会二〇名余参加

一四、同二五日戦争展実行委員会

一五、同二六日慶應生協学生委員会の地下壕見学会二五名余参加

一六、同二七日横浜市より後援を承認すると通知があつた

一七、同二八日横浜市より後援を承認すると通知があつた

一八、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

一九、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

二〇、同二八日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二一、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二二、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

二三、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二四、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二五、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二六、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二七、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二八、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

二九、同二九日横浜市より後援を承認すると通知があつた

六、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

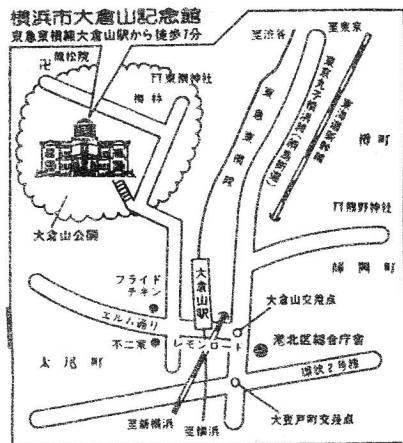
二〇余名参加

卷之三

2月 9日(水)
午前10時から
2月13日(日)
午後5時まで

場 所

横浜市大倉山記念館



主催：平和のための戦争展
実行委員会

後援：横浜市

後援：横浜市教育委員会

实施团体：

★日吉台地下壕保存の会
★川崎市中原平和教育学級

記録編集委員会

★川崎市中原平和人権尊重 学級企画委員会

連絡先：

★寺田貞治(8045-562-1282)
★渡辺賢二(80462-34-4203)

平和のための戦争展「私の街から戦争が見える」

实施内容

- 2月9日(水)～2月13日(日)
 - <展示>日吉台地下壕と登戸研究所を中心に戦争の実態をパネルなどで展示
★1階・ギャラリー
 - 2月12日(土)
 - <ビデオ上映>
日吉台地下壕、登戸研究所
松代大本営、戦ふ少国民など
★午前10時～12時半
★3階・第2集会室
 - <講演>
 - 日吉台地下壕：寺田貞治氏
 - 登戸研究所：渡辺賢二氏
 - 松代大本営：大日方悦夫氏
 - ★午後1時～4時
★2階・ホール
 - 2月13日(日)
 - <戦争体験者の話>
 - 中国大陆で強制連行に携わった元軍人の話
 - 海軍警備隊で横須賀基地から日吉にきた元軍人の話
 - 登戸研究所にかかわった人の話
 - ★午前10時～12時半
★1階・第10集会室
 - <シンポジウム>
 - 若者達の調査研究報告と討論
★午後1時～4時
★1階・第10集会室